

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立東淀中学校
令和 6 年 12 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年、5月8日に新型コロナウィルス感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律が5類感染症に移行したことにより、それまでの過去3年間において制限や変更、中止があった学校行事などの取り組みが再開できた。今年度においても、活動制限することなく、感染防止対策は継続しながらも、校内の現状や課題に対して効果的に生徒への支援や改善を実施し、課題解決に向けて学校運営を進めていく。

この数年間は、生活指導面においては学校内外での生徒の問題行動が減少し、一定の規律を保たれた状況で教育活動を遂行することができている。しかしながら、生徒間のSNSに関連するトラブルは発生しており、引き続き、いじめなどの防止については、生徒への指導を継続なければならない。また、自ら学習に取り組む姿勢など、生徒の主体的な行動を高めるまでには至っていない。ただ、生徒自身の意識については、アンケート結果から年々向上している。「授業中まじめに学習に取り組んでいる」の質問では、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は48%であるが、2年生は51%、3年生は53%と過半数を超えており、1年生でも39%と比較的に低いながらも、「どちらかといえば、そう思う。」も含めると肯定的な意見としては93%であり、今後の教育活動による改善が期待される。また、「学校に行くのが楽しい。」との質問に肯定的に答える割合は、86%とし、過去3年間の83%を上回る。ただし、「どちらかといえばそう思う」という消極的に肯定する生徒が肯定する生徒全体の中で多くあり、生徒の意識も含め、まだまだ多く改善する余地がある。

不登校生徒は依然として大阪市平均に比べ高い状態にあるものの、「それぞれの立場を思いやれる学級になっている。」において肯定的な意見が85%と一昨年度と比較して改善されており、個に応じた適正な対応から、全体的には改善がみられている。継続して、生徒個人のアセスメントを行い、外部関係機関と連携しながら、校内体制を整え、さらに改善することを目標とし取り組んでいく。また新たな不登校生徒が増加しないように、事前防止につながる仲間づくりを推進していく。

学力面においては、令和5年度の全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテストの本校3年生平均は全ての教科で大阪市平均を下回っている。しかし、2年生では社会が大阪市と大阪府の平均を上回り、数学も大阪府と大阪市の平均に達している。理科も大阪市を上回っている。また、3年生はチャレンジテストの同一母集団において、得点が府平均の7割未満である生徒の割合が改善されている。

これまで外国語教育の中長期的な対策を最大の課題として、外国語教育における小中連携を発展させ、校内でも英語教育に力を注いできた。依然として課題は改善されず、今年度においても、これまでの取り組みを維持しつつ、授業を見直し、「わかる」授業の推進により、基礎学力の定着と個に応じた学力向上を推進していく。それには、学力向上に向けて自学自習の習慣を身に付けさせたい。さらに、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上とする
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を70%以上とする
- 令和7年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合※を毎年増加させる。

※大阪市教育振興基本計画の不登校への対応より抜粋

前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど総合的な判断により、不登校の状態が改善されたとする人数を把握

- 1 出席日数の増
- 2 I C Tの活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数の増
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語・数学とも0.95以上とする。
- 令和7年度の大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上とする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均を男女とも全国平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクトなどのI C T機器を積極的に利用している」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする
- 令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」の項目についての肯定的回率を毎年増加させる。
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を40%以上とする。
- 令和7年度末において教員の勤務時間の上限に関する基準2※を満たす教職員の割合を80%以上とする。

※学校園における働き方改革推進プランより

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。
【現状79%】(1年:76%、2年:82%、3年:81%)
- 年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。
(前年度 10.4%)
- 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる
(前年度 82.0%)

学校園の年度目標

- 年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度60%より増加させる。
【現状56%】(1年:56%、2年:52%、3年:58%)
- 年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
【現状78%】(1年:69%、2年:80%、3年:86%)
- 年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度（保護者23% 生徒41%）より増加させる。【現状: 保護者20%、生徒36%】(保護者・1年:18%、2年:13%、3年:30%) (生徒・1年:32%、2年:33%、3年:44%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。
【現状41%】(1年:34%、2年:38%、3年:50%)
- 中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
(3年 国0.95⇒0.97、前年度の2年 国0.90)
- 中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
(3年 数1.00⇒0.98、前年度の2年 数0.93)
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度58.0%より増加する。
【現状56%】(1年:57%、2年:56%、3年:53%)

学校園の年度目標

- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を39%以上とする。
(前年度 37.9%)

○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30.0%に増加させる。
(前年度 29.6% ⇒ 35.3%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度93%より増加させる。
【現状 91%】(1年:90%、2年:92%、3年:92%)

○令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を前年度よりも向上させる。
(前年度 男子 39.36 女子 43.84)

【学びを支える教育環境の充実】

【大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。
【新規設定項目】

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度84%より増加にする。
(現状 10月31日までで10%)

【学校園の年度目標】

○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度27%よりも向上させる。
【現状 28%】(1年:24%、2年:33%、3年:28%)

○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度54%よりも向上させる。
【現状 52%】(1年:47%、2年:54%、3年:56%)

○令和6年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度83%よりも向上させる。
【現状 82%】(1年:79%、2年:81%、3年:86%)

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立東淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も、肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。 【現状79%】（1年：76%、2年：82%、3年：81%）</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。 （前年度 10.4%）</p> <p>○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる （前年度 82.0%）</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度60%以上増加させる。 【現状56%】（1年：56%、2年：52%、3年：58%）</p> <p>○年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 【現状78%】（1年：69%、2年：80%、3年：86%）</p> <p>○年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度（保護者23% 生徒41%）より増加させる。【現状：保護者20%、生徒36%】（保護者・1年：18%、2年：13%、3年：30%）（生徒・1年：32%、2年：33%、3年：44%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの認知をアンケートや日々の観察による早期発見、早期解決を図り、いじめを許さない心を育てていく。</p> <p>指標</p> <p>「いじめについて考える日」を設定して、いじめに関する校長講話と学級活動を行い、いじめを許さない学級・学校づくりについて学校全体で再認識する。</p> <p>学期に1回いじめアンケートを実施し早期発見、早期解決を図る。</p> <p>いじめについての全体研修会を年5回以上実施し教職員の共通理解を図り、学年ごとに年3回以上いじめに関する取組を実施する。</p>	B

年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を82%以上にする。

取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

生徒の情報交換を密に行い、教職員が生徒理解に努め、問題行動や不登校の未然防止をするとともに早期発見を行う。生徒一人ひとりに寄り添った適切な支援を行うことで、問題行動や不登校の早期解決を図る。

指標

学年は随時、週に1回主任会、教職員全体に月1回生徒の情報交換を行う。生徒一人ひとりの実態を把握し、それに応じた指導・支援をするため、学期に1回教職員全体でスクリーニング会議を開催し、必要に応じて外部機関と連携する。

日々生徒理解に努め、「アセス」を活用するとともに年2回以上教育相談を行う。

不登校の生徒において家庭と連携しながら学校に登校できるように支援する。不登校の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

B

取組内容③【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成するため、区や消防署、地域連携して防災・減災教育を推進する。

指標

「防災・減災カリキュラム」を適宜見直し、年間計画をもとに防災・減災教育を進める。年間2回以上校内で避難訓練を行い、防災意識を高める。区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を生徒が主体的に取り組める活動になるよう実施する。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

B

取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】

生徒の勤労観や職業観を育てるため3年間を見据えたキャリア教育の計画を作成し、実践する。

経年で職業講話、職場体験、出前授業とつながりを持った取組を行っていくことで将来への具体的な目標を持たせ、自発的な学習意欲と自己肯定感を育んでいく。

指標

キャリアパスポートを活用しながら体系的・系統的にキャリア教育を進めるとともに、企業や団体との連携し、各学年とも年間2時間以上でキャリア教育体験活動を実施して進路選択への意識を高めていく。

年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

B

取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】

人権教育や道徳教育の推進し、道徳心・社会性の育成を図る。さらに、集団行動訓練や活動を通じて、安全に配慮し、自他の生命の尊厳とともに互いの大切さを認め合い、支え合いながら問題解決できる集団づくりを推進する。

B

指標

人権教育年間指導計画と道徳教育年間指導計画を作成し、計画的に実行する。命

の大切さを自他ともに実感できるような取組を系統的に実施する。各学年で生命の大切さを育む授業を年1回以上行う。校内での格差や差別・偏見を生まない環境を整え、学校行事において集団づくりの取り組みを行い、自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度や自他の人権を守る実践行動につなげることで、年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①について

- ・「いじめについて考える日」に校長から全校生徒に講話をした。また、学期に1回のいじめアンケートを計画通り実施し、いじめの早期発見、早期解決を図っている。
- ・生徒理解の研修をこれまでに3回実施しており、スクリーニング会議を2回行っている。
- ・各学年の取り組みも進めている

1年：一泊移住、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

集団生活や対人関係にかかわる臨時集会

2年：校外学習、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

3年：修学旅行、体育的行事の取り組み、文化発表会での取り組み

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は82%の目標に対し、現時点で79%である。昨年度よりも1ポイント減少しているが、中学校入学して間もない1年生が76%であり、2年生は82%、3年生が81%となっていることから中学校での取り組みの成果はみられる。1年生も夏休み以降に学校行事を始め、多くの取り組みをしていることから、改善が予想されることもあり「B」とする。

取り組み内容②

- ・主任会や学年会、職員会議で生徒の情報交換を行っており、全教職員で生徒を見守る体制をとることができている。
- ・1年生は中学校区の3小学校を始め、他校区や他の自治体から入学して、新しい学校生活を経験している。様々な不安などに対し、教育相談を1学期と夏休み直後の2回実施したことで学級担任が生徒理解を深め、問題の早期発見早期措置を実践している。3学期末にも実施予定である。
- ・不登校の在籍比率は全体で12.0%であり、昨年度（10.4%）とより増加している。しかしながら、年度当初の4月より改善・改善傾向にある生徒は、現時点で66.2%と昨年度（58.3%）より増加している。当該生徒への対応を教員や外部機関との連携により改善に向かう生徒も多い。
- ・昨年度からの不登校の完全に改善した数は62名中11名で17.7%である。また改善傾向も含めた数は、62名中44名で71.0%と昨年度（82.0%）より減少しているが、高い水準での改善がみられる。

以上のことから数値において若干の減少はあるものの、全体的に改善傾向にあることから、「B」とする。

取り組み内容③

- ・集会などでグランドや体育館で集合する際には、各クラスで整列し、避難経路を通って外に出るようにしており、日ごろから防災に対する意識付けをしている。
- ・1学期には地震、2学期に火災を想定した避難訓練を実施した。消防署とも連携し防災・

減災教育を行い、体験を交えた学習を行った。

「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は、56%であり、昨年度(60%)と比べるとやや減少傾向である。肯定的な回答に関しても昨年度(95%)より減少しているが、93%であり、高い水準を保っている。このことから「B」とする。これから実施するものもあるので、生徒の安全に関する意識を高めていきたい。

取り組み内容④

- ・キャリアパスポートを活用している。また各学年での取り組みも進めている。

1年：職業調べ 2年：職場体験 3年：自分の将来を考えよう、進路学習

「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合は78%であり、目標の80%を下回るが、1年生が69%、2年生が80%、3年生が86%と学年が上がるにつれ増加している。これは3年間を見通した計画の結果であり、これから2年生は職場体験学習の取り組みが増えるなど、改善が見通せるため「B」とする。

取り組み内容⑤

- ・1年生では一泊移住、2年生は校外学習、3年生では修学旅行を実施し、集団づくりの取り組みを行っている。
- ・1. 3年生で命の大切さを育む講話を講師の方を招いて実施した。2年生で性に関する教育を計画中である。

「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合は昨年度(41%)から36%と若干減少している。しかし、修学旅行などの取り組みを経験した3年生は44%となっており、2学期から様々な学校行事などの取り組みを実施する1年生と2年生も改善されるとの見通しがあるため「B」とする。

次年度への改善点

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標			達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を38%以上にする。 【現状 41%】（1年：34%、2年：38%、3年：50%） ○中学校チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 （3年 国 0.95⇒0.97、前年度の2年 国 0.90） ○中学校チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 （3年 数 1.00⇒0.98、前年度の2年 数 0.93） ○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度58.0%より増加する　【現状 56%】（1年：57%、2年：56%、3年：53%） 			
学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を39%以上とする。　（前年度 37.9%） ○3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30.0%に増加させる。 （前年度 29.6% ⇒ 35.3%） ○年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を前年度93%より増加させる。 【現状 91%】（1年：90%、2年：92%、3年：92%） ○令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を前年度よりも向上させる。　（前年度 男子 39.36 女子 43.84） 			B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 習熟度授業など個に応じた学習の推進をするとともに校内で相互参観週間を設け、全教員が研究授業を行うことによって授業改善を意識し、「わかる」「できる」授業を推進し、考える力と応用力を伸ばし自らの課題解決に向けて成長させる。</p>	
<p>指標 ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行う。授業を伴った校内研修会を実施し授業改善をすることで、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を37%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 各教科、各学年で学力向上に向けた取り組みを進める。各教科において家庭学習課題や長期休業中における学習課題を精選、提供する。学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学習会を開催することで学習機会を増やし、自学自習の習慣を身につけさせる。学力向上を進めていく。</p>	
<p>指標 各教科で全市共通テスト等の結果データを分析し、授業で活用するとともに共通テスト前にプレテストや対策学習を実施する。テスト前学習会の実施、放課後学習会を週2回以上開催する。 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-Net講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。 校区3小学校に先生を派遣し、小学校からの英語力の向上を目指す。</p>	
<p>指標 3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-Net講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合を昨年度より向上することを目指し、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を39%以上にする。 英語教諭を小学校に派遣し、年間100時間程度、校区3小学校での英語授業を行う。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 体育科においてダンスの授業に力を入れ、外部講師とも連携しながら、リズム感の育成と集団育成に役立てていく。</p>	
<p>指標 1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を行い、年3回以上の校内実技研修を実施し、授業においての成果を発表会の場で表現できるように</p>	B

する。年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を58%以上にする。

組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】

部活動の活性化を図り、体力の向上を目指すとともに、目標や成長の過程を身近なものにすることで、自尊心や達成感を持たせる。

保健体育の授業や体育行事を通じて運動意欲を高め、体力向上を図る。

指標

新入生に部活動への体験入部期間を設け、適正かつ希望する部活動へ入部できるようを行う。部活動指針に従い運営し、プレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで、年度末の校内生徒アンケートにおいて「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問項目に対して肯定的に回答する生徒の割合を94%以上にする。また、体育大会等の体育行事や日々の授業においてスポーツの楽しさと体力向上を意識させ、参加・活動させることで令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①について】

- ・7月実施の前期学校アンケートの「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」の回答が目標値を超えている。故に、「B」の目標通りに達成したと言える。

【取組内容②について】

- ・「中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。」という目標に対して、3年の数学では1.00から0.98に下がったが、国語では0.95から0.97に向上した。例年の結果より非常に高い数値が出ていることから「B」とする。今後は本テスト結果を解析し課題を明確にすることで家庭学習課題や長期休業中の課題の充実を図り、自学自習の習慣を常態化していくことで学力向上につなげていく。

【取組内容③について】

- ・3年生対象に英検を校内で実施し受験した。
3年生における英検3級を取得している生徒の割合について、前年度は29.6%に対して、今年度は35.3%に向上した。
- ・英語の授業において、C-Net講師と連携しながら実践的な授業を行っている。
- ・英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を行うことができた。

以上のことから「B」とする。

【取組内容④、⑤について】

- ・1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を実施することができた。また、授業においての成果を発表会の場で表現できるようにした。
- ・前期学校アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」は目標の58%以上に対し、56%と下回っている。これは3年生が53%

と低い水準ではあり、同学年は昨年の全国体力・運動能力、運動習慣調査においても低い水準であった。しかしながら、10月実施の体育大会での取り組みからスポーツの楽しさや体力の向上に対する意識は向上したと感じられる。1年生は57%、2年生は56%という数値からも体育大会を始め、様々な体育的行事などを取り組んでいることから改善が見通される。そのため「B」とする。「自主的・主体的に活動していると感じる」の質問に対して肯定的に回答する生徒の割合が目標値93%以上から現状91%を下回っているが高い水準を保っていることから「B」とする。今後も引き続きプレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導することで部活動のさらなる活性化を図り、体力の向上につなげていく。

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立東淀中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】	
大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標	
○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）、年間授業日の60%以上にする。	【9月30日時点 2.3%】
○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を前年度84%より増加にする。	（現状 10月31日までで10%）
学校園の年度目標	C
○年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を前年度27%よりも向上させる。	【現状28%】（1年：24%、2年：33%、3年：28%）
○年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を前年度54%よりも向上させる。	【現状52%】（1年：47%、2年：54%、3年：56%）
○令和6年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して肯定的に回答する割合を前年度83%よりも向上させる。	【現状82%】（1年：79%、2年：81%、3年：86%）

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号 6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 I C T 機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す。また、デジタル教材の活用で個に応じた学習と主体的な学びの育成を推進する。一人一台端末の使用により生徒の心の状態や日々の状態を可視化することで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見につなげる。	C
指標 授業で I C T 機器の利用を進めることができるように環境を整え、授業で I C T 機器の活用を行う。毎日の朝学活において、一人一台端末を活用して、「心の天気」を入力させ、定期的にいじめアンケート等も入力させることで情報を共有し、生徒理解を深める。デジタル教材を活用した朝学活を週 2 回以上実施する。	C
取組内容②【基本的な方向番号 7、人材の確保・しなやかな組織づくり】 働き方改革を推進し、教員の長時間勤務の解消をしながら、生徒一人ひとりに対して向き合う時間を確保し、教員が健康的でかつ活気ある職場環境を目指す。	C
指標 毎週水曜日をゆとりの日と設定し、校内月中行事に記載する。実施日には、管理職よりゆとりの日を宣言し連絡黒板に明記する。ゆとりの日においては、原則生徒対応・生活指導対応以外は午後 7 時までの退勤とする。 これまで実施していた長期休業中の学校閉庁日の設定を継続して実施することで有給休暇の取得を促し、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 85 % 以上にする。	C
取組内容③【基本的な方向番号 8、生涯学習の支援】 生徒の読書環境を充実させることで読書を促し、読解力を高める。 生徒による文化委員会の活動を中心に、図書への意識を高め、図書室利用の活性化を図る。図書室の利用を通じて多様な知識を身に付けさせるとともに、広い視野で物事を考える力を養う。	B
指標 今年度内に図書室や学校図書等の活用する方法を議論し、取組を検討し実施する。 定期的に行う文化委員会の活動で図書室利用を促進する方法を議論して取り組む。毎月 1 回図書館だよりを発行し、図書への意識を高める。 年に 1 回リサイクル本フェアを実施し、気軽に図書を手に取ることができる機会を設ける。 年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的に回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。	B
取組内容④【基本的な方向番号 9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 学校協議会により保護者や地域住民など学校関係者の意向を反映し、学校運営を行う。学校の情報を広く発信する。学校元気アップ地域本部事業を活用してボランティアによる学校支援を行う。これらの取り組みによって開かれた学校づくりを推進する。	B
指標	

学校協議会において運営の計画の策定に意向を反映させる。

学校ホームページにて積極的に情報を発信して年間閲覧件数を50,000件以上にすることで、年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。学校元気アップ地域本部事業を活用して週2回の放課後学習会、テスト前学習会、週1回の図書室において地域ボランティアを配置することで自主学習支援、図書室の活性化を図る。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①について

- ・「ICT機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す」ことについて、現在教室内のICT機器の環境整備を勧めている。現状3クラスではあるが、モニターの設置が進み、その他についても随時勧めていくこととなっている。
- ・定期的ないじめアンケートへの回答については、生徒へアンケートについて連絡し、その内容に応じた対応を教員側も行い、いじめの根源から絶やすことに努めている。
- ・「心の天気」については、本校においては朝の学活時に行うとしている。しかし、現状十分に取り組めてはいない。「心の天気」が目指している「生徒自身による自己理解」や「生徒の心の健康を守る」ことという狙いを再度見つめなおし、目的意識と目指すことを再度理解し、教員側も生徒へ取り組ませる必要がある。
- ・以上の点からも、本校における一人一台端末の活用は、不十分であると考える。数値としても、目標は年間授業日の60%以上に対して、9月30日時点で2.3%であるため年度目標の達成は現時点で厳しいものとなっていることから「C」とする。

しかしながら、新規設定項目である今回の目標の数値は教育委員会が定める基準によるものである。そのため、「心の天気」では不登校生徒が多い現状に加え、遅刻生徒も非常に多い。それは、「心の天気」の意義としては朝学活での実施が望ましいとされるが、その時間帯に不在の生徒が多く実施できていない現状がある。また全校集会や学年集会、そして、朝の学習などの取り組みから時間的な厳しさが問題となっている。授業において一人一台端末の活用を多くの授業で実施しているが、学びのポータルを活用していないことから集計の数値に上がっていかないのではないかとも考えられる。そういったことから、年度末に行われる校内アンケートの結果も鑑みて、分析したい。また、授業での活用に終わらず、生徒の学校生活をより豊かにするための手段としての活用を進めていかなければならぬ。

取り組み内容②

- ・「教員の長時間勤務の解消」については、管理職から毎週のゆとりの日の呼びかけや閉庁日の設定をし、長時間勤務解消に向けての取り組みは怠らず取り組んでいる。現状では全体の10%が達成している。このことから「C」とする。しかし、例年は夏季休業中に年休を多く取得する傾向にあるが、今年は学校閉庁日が土日祝を含め、連続9日間あった。また、通勤の負担を軽減するテレワークの取得も多く、平時の長時間労働時間も昨年度より減少している。しかしながら、今後も有給休暇の取得数について、達成できていない教員に有給休暇を促していくように、校務の分担・効率化を図り、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合85%となるように取り組んでいきたい。

取り組み内容③

・昼休みや放課後に図書館司書さんやボランティアの方と連携を取りながら、読書活動の促進を行っている。生徒の読書の取り組み状況などは放送などを通して生徒へ伝えたり、図書館開館の連絡をするなどし、生徒の読書への意思を高めることに努めている。文化委員会による図書への取り組みを行ってきたことから、生徒アンケートにおける図書室の利用に関する結果は、27%であった昨年度から、現状時点で28%（1年：24%、2年：33%、3年：28%）となっていることから「B」とする。これからも数値が大きく向上するとみられるため、今後も文化委員会の活動を続けていきたい。

取り組み内容④

・主に教育活動について発信する方法には、ホームページ以外にも各学年が作成する学年だよりや各クラスで作成する学級通信などがある。その中でも中学校にこどもをもたない地域に対して、ホームページは学校のことについて知ってもらうことのできる一番のツールになる。中でも年間閲覧件数を50000件以上とする目標は12月時点で50304件と目標値を上回っていることから「B」とする。今後は、授業参観はないものの体育の授業や合唱コンクールといった異なる方法で生徒の教育活動のようすを見てもらう機会を増やすことによって、学校と保護者とのつながりを維持でき、今後の円滑な教育活動につながると考えられるので、積極的に開かれた学校をめざせるように取り組んでいきたい。

次年度への改善点